



ゆり地域支援だより

令和8年3月18日発行 第4号 秋田県立ゆり支援学校 地域支援部



多様性を受け入れる

ゆり支援学校 校長 阿部 裕子

交流及び共同学習では、子供たちが共に活動し、同じ時間を過ごす中で、できることや苦手なこと、感じ方の違いに気付き、それぞれの違いが特別なものではなく、誰の中にもあることとして受け止める心を育むことを目指しています。本校においても、学校間交流や居住地校交流を実施しており、交流の機会は限られるものの、経験を重ねるごとに相手を理解しようとする姿や、子供たち同士が自然に関わる姿など、互いを尊重する姿が見られることをうれしく思います。

この交流及び共同学習を下支えしているのが、障害理解（多様性理解）授業です。「人の気持ちが分かるようになりたい」「自分の普通はみんなの普通ではないことが分かった」「大事にしたいことは心のバリアフリーです」これらは、授業を受けた小・中学校の児童生徒の感想です。授業を通して子供たちは、障害だけではなく、子供や高齢者、妊婦、外国の人など、自分の周りには自分とは異なる立場や背景をもつ人がたくさんいることや、様々な価値観があることに気付きます。そして、実際に交流する体験を通して、自分と違うことを排除するのではなく、受け入れることで新たな価値観を身に付け、「みんな違って みんないい」という気持ちをもてるようになるのではないかと考えています。

交流後、「〇〇さんと会えてうれしかった」「一緒に勉強楽しかった」「心配したけどたくさん話ができた」と満面の笑みで語る子供たち。今後も互いを尊重し合いながら共に生きる力を育んでいく取組を、地域とともに進めていきたいと考えています。



特別支援学校のセンター的機能

今年度の支援の実施状況について

今年度も各校園から特別支援教育についての相談や教職員への支援、研修協力などのご依頼をたくさんいただきました。今年度は行動面で気になる幼児児童生徒への支援について、行動の背景を探ったり、どのように支援をしていくか先生方とアイデアを出し合ったりする研修の機会を多くもちました。「職員間で共通理解して取り組むことが増えた」や「互いに相談しやすくなった」など子供を理解し、指導や支援方法を共有することで職員間の連携が深まったという園や学校が多くありました。本校のセンター的機能をご活用いただきありがとうございました。次年度もぜひご活用ください。

センター的機能活用アンケートより

今年度の 実施状況

- ①教育相談支援：30回
(本校での実施)
- ②教育活動支援：訪問回数 45回
☆こども園、保育園 19園 33回
☆小・中・高校 7校 12回
- ③地域における障害理解の推進：
☆交流及び共同学習 13校 29回
☆障害理解授業への協力 13校 32回
- ④研修会や見学会等の実施 4回

主な 相談内容

- 特性の理解と支援
- 集団活動への参加を促す教材や手立ての工夫
- 気持ちの切り替えを促す支援方法。
- 子どもの困り感を保護者と共有するためには。

変容や効果があったこと

- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に生かすことができた。
- ・特別支援学級の学級経営や授業改善のための教材研究ができた。
- ・職員間の情報共有ができた。対応をそろえたり変容を確かめたりすることが増えた。

ご要望

- ・教材や環境の工夫の実際を参観したい。
- ・教員向けの講習会～ペアレントトレーニングなどを知りたい。
- ・特性のある子どもの具体的な支援の検討をしたい。

アンケートから

課題と感じていること

- ・療育につながっていない子への対応等について。ケース検討を充実させたい。
- ・日々悩みながら関わっている。方向性を確認する機会になった。継続して活用したい。
- ・保護者との連携～家庭と協力した指導支援、保護者との困り感の共有に難しさを感じている。
- ・出身校や進学先との連携。

自立活動の指導の一例

自立活動は・・・

各教科等を学ぶための基盤となる能力等が障害によってうまく機能していない点にアプローチして、子どもが主体的に改善・克服しようとする取組を促していくための指導

【事例】

少しの失敗で過去のことがフラッシュバックし、感情が爆発するA君

(1) 実態把握－子どもの困難を総合的に見つめる－背景をさぐる。

- ・学習に意欲的で体験的な活動を好む。人の役に立ちたい気持ちがある。
- ・自分の思いをうまく言葉で表現できず、相手に伝わらないイライラが暴言、暴力につながることもある。
- ・思い込みが強く、周囲の人にも同じように求めてしまうことがある。

ポイント！

- ・学習や生活の中での長所や困難さなど、対象児童生徒について具体的なエピソードを記入

(2) 背景要因－「～のため困難が生じている」

- ・過去に友達から受けた理不尽な対応がフラッシュバックする。
- ・自尊感情が低く、完璧にやりたいという気持ちから情緒不安定になる。
- ・うまくいかなかった時に「自分は悪くない」という意識が働き、感情のコントロールが難しく、学習や人との関わりに困難が生じている。

ポイント！

この課題を解決すると他の課題の改善につながる

(3) 指導課題－背景等の分析から中心的な指導課題を抽出

中心課題：周囲の人との円滑な人間関係 肯定的な自己理解

(4) 目標－自立活動の6区分から選定

- ・感情が昂ぶったときに、自分自身で感情を鎮める方法を知る。【心理的な安定（1）】
- ・自分の得意なことと苦手なことを知り、苦手なことに対処する方法を教師と一緒に考え、実践する。
- 【人間関係の形成（3）】
- ・相手の気持ちを考え、言葉を選んで会話したり適切な距離を保って関わったりする。
- 【人間関係の形成（1）（2）、コミュニケーション（5）】

(5) 指導内容

- ①好きなことを基盤にした学習活動 ex)実験や調理を取り入れた生活単元学習
- ②役割の遂行 ex)生徒会活動、行事の主演
- ③感情のコントロール ex)集団によるSST、担任との面談の積み重ね

(6) 成果と課題－次年度に向けて

- ・情緒が安定し、自己理解が深まった。
→定期的な面談等で、個別に聞き取ることが効果的だった。
- ・主体的な姿が増えた。
→課題を選択肢で提示、選択に自信がもてるよう職員間で対応を共通理解。

- ・成功体験をより味わえるように「できた理由」を一緒に言語化する。
- ・SSTで得た気づきを具体場面で実践できるよう言葉掛けをする。
- ・支援体制の共通理解～本人の成長段階を見極め、寄り添いつつ支援する。

ポイント！

その子の強みややる気スイッチにつながる内容

次年度への引継ぎに大事！

指導にあたって大事にしたいこと ～本校の自立活動研修会より

- 失敗が許される雰囲気（学級経営）
- 安心できる他者を基盤にする
- 話し合い（相談）、やりとり、やり直しがきく活動
- 大人の作戦会議（対応についての共通理解）

学校は「友達となかよくするところ」、「最後まであきらめずに頑張るところ」というように捉えがちです。そのため理想に及ばない自分を責めたり、友達を責めたりして不適応を起こす場合もあります。周囲は本人の苦しさを理解し、原因や背景を分析すること、段階的に教えること、根気強く励ますことが大切です。

先生方のお悩みや疑問にお答えします。ご連絡、お待ちしております。

秋田県立ゆり支援学校 地域支援部 TEL：0184-27-2631

E-mail:yuri-s@akita-pref.ed.jp

